

会報

No. 10

会長就任の辞

小林 靖雄

今般私は日本中小企業学会の会長の重職を荷なうことになりました。浅学菲才の身をかえりみず敢て御引受けをした理由は、先輩諸兄の御努力で創設されたこの意義ある学会に対して、少しでも御役に立てばという気持以外にありません。

初代会長の故山中篤太郎先生は、本会の設立総会の席上、「中小企業の研究はまさに学際的研究であり、玄人好みの研究である。研究の立場の相違をこえて、学会という共通の場で、現在の課題として徹底的研究を進めてほしい」と要望されました。また二代会長の伊東岱吉先生も、「中小企業問題は今や世界的に注目されている問題であり、事実により実証をふまえ、各種の視点からひろく自由に論じうる場として学会の意義が大きい」ことを強調されています。

この学会は、発足当時205名の会員であったものが今日357名の同学の士を迎えるに至りました。この間昭和58年5月31日付けで、日本学術会議の登録学協会として公に認知されています。日常は東部・中部・西部・九州の4部会に分れ、部会活動を展開し、年1回開催してきた全国大会での研究成果は今日まで5冊の研究年報にまとめられて公刊されてきました。

乏しい学会の財政状態のなかではありますが、今後とも会員諸兄の一層の切磋琢磨を通じて充実した研究成果をあげ、今日いよいよ重大な局面を迎えつつある中小企業問題の解明に対して一歩でも貢献したいと念願するものであります。

ここに会員諸兄の絶大な御協力をえて、今期会長の重責を果たたく、御挨拶を申し上げる次第であります。

